

第一生命と連携協定を締結

10月4日（水）、町と第一生命保険が健康増進や子育て支援、スポーツ振興など10項目について協力していく包括連携協定を締結しました。

町役場で行われた締結式では、相川町長と同社の野田淳青森支社長が協定書に署名しました。

相川町長は「少子高齢化が進む中、この協定を通じて若い世代に選ばれるまちづくりに向けて努力していく」と意気込みを語りました。野田支社長は「町としっかりと協力し、地域の活性化に貢献していきたい」と話していました。



協定を締結した相川町長と野田支社長



鶴遊館で行われた学習交流会のようす

精神障害者の家族支援を学ぶ

10月13日（金）、西北五精神障害者家族会連合会による学習交流会が、鶴遊館で開かれました。

障害者と家族、施設関係者ら約100人が参加し、障害者の家族支援について学んでいました。

講師は青森市で作業療法士として働く笹森哲嗣さんが務めました。笹森さんは「障害が重い人ほど受けられる支援が少なく、家族が身を削って支えている」と説明。家族の社会的孤立を予防するために、医療従事者や家族会などのさまざまな支援があることを紹介し、積極的な利用を呼びかけていました。

鶴田BBCが優勝！学童野球大会

10月8日（日）、町営球場で「鶴寿橋開通記念第46回選抜学童野球大会」が開催されました。津軽地域の10チームが出場し、熱戦を繰り広げました。

大会はトーナメント形式で行われ、鶴田町のチーム鶴田BBCもA（6年生が主体）・B（4・5年生が主体）の2チームが出場しました。両チームとも順調に試合を勝ち進め、決勝戦では同チーム内対決となりました。試合はAチームが実力を発揮。終始試合をリードし、12対3で優勝を勝ち取りました。



全力でプレイする選手たち



Vol.60（筆：毛利精悟）

毎日、役場の朝礼に出たあと、『津軽ぶどう村』に向かいます。集荷や箱詰め・発送をしながら、経費の見直しや助成金申請、就業環境の整備など、会社の経営効率化を進めています。

ちなみにスチューベン畑の一部をお借りしてぶどう栽培もしていますが、形も色も整った良いぶどうに仕上げるには、本当に手間がかかると実感しました。

9月には『ツル多はげます会』事務局として秋の例会に参加し、趣向の凝らされた催しに腹がよじれるほど笑いました。

『住宅・土地統計調査』では3地区の調査を担当し、町内の空家や家屋の状態を調査しました。ご協力いただいた住民の皆さまに感謝いたします。

また、私が鶴田町に興味を持つきっかけとなったCM大賞の応募作品制作にかかわることができたのも嬉しいです。2025年春には町内で開業が既存事業者の承継を目指します。



▲①・②中秋の有多毛（うたげ）」でのひとコマ
③「CM大賞」応募作品の撮影風景



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



地下道を隅々まで清掃する会員たち

ライオンズクラブが地下道を清掃

10月10日（火）、鶴田ライオンズクラブ（秋庭隆貢会長）が陸奥鶴田駅付近の「丹頂地下道」で、恒例の清掃ボランティアを行いました。

同クラブによる清掃活動は毎年行われており、参加者たちは長いほうきで天井のクモの巣を取り除いたり、階段脇の落葉やタバコの吸い殻などを拾い集めるなど、隅々まで清掃していました。

秋庭会長は「町の玄関口をきれいにし、観光客や高校生など利用者が気持ちよく通ってもらいたい」と話していました。

兄妹で東北大会V、準Vを報告【空手】

9月に弘前市で行われた「第23回全東北空手道選手権大会」で、好成績を収めた長内翔生さん（木造高1年）、長内泉由栞さん（鶴田中3年）兄妹が10月11日（水）、役場を訪れ、相川町長に報告をしました。

翔生さんは組手高校1年生男子の部で優勝、泉由栞さんは組手中学2・3年生女子の部で準優勝をしました。翔生さんは「周りの応援が励みになりました。次も勝てるように努力していく」、泉由栞さんは「中学最後の大会が準優勝で悔しかった。高校でも空手をやっていきたい」と話していました。



東北大会の成績を報告した
長内翔生さん（中央）と泉由栞さん（右から2番目）



さまざまなパフォーマンスで会場を盛り上げていました

鶴田町読み聞かせフェア

鶴田町子ども読書活動推進協議会による「鶴田町読み聞かせフェア」が、10月21日（土）町国際交流会館で開催され、町内の子どもたち約150人が参加しました。

講師は秋田県を中心に活動している谷京子さんと谷さんが代表を務める「グループかぜ」が昨年に引き続き務めました。会場では絵本の読み聞かせのほかに、ピアノやフルートなどの楽器演奏や影絵劇などが行われ、会場を訪れた子どもたちを楽しませていました。

個性豊かな絵入りリンゴを収穫

10月19日（木）、妙堂崎地区のリンゴ農家「拓紅園」の中野光彦さんが自身の園地で制作した「絵・文字入りリンゴ」の収穫を行いました。

リンゴが色づく前に文字や絵がかかれたシールを貼り付けることで、シールで影になった部分だけが白く浮かび上がる「絵入りリンゴ」。この日は津軽弁やイラストなどが入ったリンゴ「陸奥」約350個を収穫しました。

中野さんは「今年は猛暑と水不足で、今まで一番栽培が難しかった。それでもいい絵入りリンゴができた」と今年の出来栄を話していました。



個性豊かな絵入りリンゴ収穫されました